

奈良県立医科大学 学報



July
2009

vol.29

CONTENTS

夜間救急玄関ホールが大きく変わります	1
入学式式辞	2
入学式の概要/新入生オリエンテーション	3
医学教育シリーズ19	4
ホオジロ通信	5
就任挨拶	6
先端研だより/中島佐一学術奨励賞授賞式/ 住居医学研究奨励金交付決定/住居医学研究会開催案内	7
研究紹介〈哲学〉	8
研究紹介〈生物学〉	9
科学研究費補助金の決定	10~11
アメニティ整備の状況/広告	12~13
めざせ7:1看護体制	14
病棟紹介(中央内視鏡・超音波部・腫瘍センター・高度救命救急センター)	15
大学交流報告/オープンキャンパス開催案内/ 消防訓練を実施/感謝状を贈呈	16
レポート	17
学生カウンセリングコーナー開設/ストップザ大麻・薬物/下ッ道/広告	18

夜間救急玄関ホールが大きく変わります

附属病院 病院長 榊 壽右

救命救急センター以外の救急患者さんが訪れる夜間救急玄関は、A棟建築以前には病院の正面玄関として使われていました。そしてA棟建築後は現在のような使われ方になりましたが、救急科を含む全科の救急処置室が置かれていたため、酔っ払って夜間に押し掛け、無理な診察を要求する患者さんの怒号、罵声が飛び交い、靴や椅子までが投げつけられていた時代がありました。わたしには、いつもこの場所を通る度に、こうした暗いイメージが頭の中を過ぎります。

またその玄関の右側に、救急患者さんの支払いや入退院窓口が置かれていましたが、高いカウンターと分厚いパネルで内部が見えないよう仕切られ、一見、監獄の窓口を想像させてしまいます。慣れとは恐ろしいもので、これら全てのものが、放置され過去の暗い時代を物語り続けてきました。

この場所を明るくし、憩いの持てるスペースにしたいという願いは全職員の共通の願いであったに違いありません。患者さんと同じ高さの目線で話し合い、患者さんの抱える不安に応え、相談に乗るのは大学病院として当然あるべき姿です。明るくて広いスペースでコーヒーでも飲みながら過ごすことができるなら、診察を受けるまでの待ち時間が少々長くても、きっと患者さんは十分納得して待ってくれることでしょう。医学生や看護学生は病院の持っている雰囲気就職先を決めるとも言われていますので、本学、病院に就職してくれる人も増えるでしょう。

休日夜間救急玄関とそれに連なるスペースが改修されて、パネルのなくなった入退院・救急窓口やコーヒーストップが出来上がります。診療状況をリアルタイムで表示する電光掲示板も設置されます。広いスペースに新しい余裕のある椅子を置き、そこで診察に来ていただいた患者さんやそのご家族、さらには本学で働くすべての人たちにコーヒーを楽しんでいただくのです。

本学が独立行政法人化されても何も変わらないと思われてきたと思います。しかし、この改修によって、暗いイメージしかなかったスペースにようやく明るい光が差し込んだと実感できるようになります。そして大学病院もきっと変わると期待していただけるようになると確信しております。

入学式式辞

学長 吉岡 章



奈良県立医科大学は、2年前に公立大学法人に衣替えをいたしました。この法人化とは、奈良県の直轄による公立大学としての歴史と伝統を継承しつつ、法人という手法を取り入れて、自主的、自律的な経営・運営形態に変更したものです。いわば、公と民のハイブリット化であります。まだ2年間の経験ですが、本学の使命であります教育・研究・診療の3本柱をさらに全うし、発展させるべく動き出しています。

この3本柱について少し説明しておきます。

まず、奈良医大は、医学・看護学の教育、特に、地域医療への貢献を目指した教育の開発と実践を教育開発センターと専任教授を置き進めて参りました。これに対して、昨年度の文科省の「質の高い教育GP (good practice)」に本学のプログラム“地域に教育の場を拡大した包括的教育の取組”が採択されました。ここに、英国Imperial College や早稲田大学のe-learningシステムの導入を計画中です。諸君は居ながらにして、海外や首都圏の大学教育に直接触れることも可能となったわけです。

次に、医学研究、特に、基礎医学・社会医学の推進と臨床医学の融合(Translational research)の遂行には力を入れています。基礎医学には13講座と先端医学研究機構がありますが、その他に日本では唯一の「住居医学講座」や「血栓制御医学講座」といった企業による大型の寄附講座も動いています。また、同志社女子大学や早稲田大学、奈良先端科学技術大学院大学との間で包括協定を締結し、技術やノウハウを互いにシェアしながら、共に研究や教育面でさらに世界に発展しようとしています。

もう一つは、医療であります。これには大学病院としての高度先進医療と地域医療の両輪があります。特に、奈良県下の地域医療に対する本学の貢献は極めて大きく、長年にわたって県民に奉仕してきています。一例を申しますと、医学科入学生に占める奈良県出身者の割合は平均25%です。6年後卒業生が医師として奈良県下の医療機関に勤務する割合は43%、さらに、約2,000名の奈良県医師会員のうち51%を奈良医大の卒業生で占めています。この51%に附属病院の医員や研修医を加えますと約60%となります。また県下の18の公立・公的医療機関の中、15病院は全員が奈良医大関係者で占めています。一方、看護学科生も、3月に卒業した第2期生は44%が本学附属病院に就職し、約50%が県下の医療機関で元気に働き出しています。このように、わが奈良医大は数字で見ましても十分な地域貢献を果していると言えますが、今後とも県民の負託に応えて参らねばならないと考えています。

私は、大学の管理と運営にあたって、キーワードとして「3つのY」、夢、喜び、やりがいの「3Y」を掲げています。

Yume : 学生諸君には、豊かな人間性と高い倫理観、高度な知識と実践能力を備えた医師や看護師を目指すという大きな「夢」があります。どうか諸君、この豊かな夢の実現に向って精進して下さい。

Yorokobi : 諸君がこの夢を実現できた暁には、医師、医学研究者、看護師、保健師、助産師というプロになるという「喜び」が待っています。同時に、諸君は、医療行為というプロの仕事を通じて、患者さんとその家族に病気からの解放というもう一つの大きな「喜び」をも与えることが出来るのです。

Yarigai : 諸君が夢を求め、実現し、喜びを体感し、患者さんの安心に貢献できることは、諸君の人生における最大、最高の「やりがい」となります。諸君はこの「やりがい」のあるプロフェッショナルへの道のスタートに、今、立っているのです。

私ども教職員は、諸君が「学びがい」のある奈良医大と附属病院の環境をさらに整備し、諸君を支援して参ります。

来年2010年は平城遷都1300年にあたりますが、その前の都、藤原京も大和朝廷が日本国として全国に号令を発した大和・明日香の地も、橿原市内とその南部に隣接しています。代々の天皇陵や数々の古墳がこの奈良医大の周辺にはたくさん存在します。このように本学は1500年以上前の首都に位置しているのです。入学生諸君は、この大和・明日香の地に慣れ親しみ愛して下さい。

どうか諸君、今日の日の感激と喜びを生涯忘れることなく、夢に向かって、大いに大学生活を楽しんで下さい。大いに学び、大いに遊び、大いに心身を鍛え、青春を謳歌して下さい。

初々しさ満開 ～医学部入学式 平成21年4月8日～

今年も初々しい新入生を迎えて、入学宣誓式が盛大に行われました。

本学で学ぶ期間は2年、4年、6年とそれぞれですが、どの顔もこれからの厳しい勉学に向けた緊張と喜びに満ちていました。桜の花も今を盛りに咲き誇り、200名の前途を祝福していました。

式の後には、医学部は2日間の、看護学科は3日間のオリエンテーションを終えて、13日の月曜日からは、さっそく授業がスタートしました。頑張れ、新入生！ 目指せ、立派な医療人！

式次第

- | | |
|-------------|---------------|
| (1) 開式の辞 | (6) 奈良県議会議長祝辞 |
| (2) 入学者報告 | (7) 同窓会長祝辞 |
| (3) 入学者宣誓 | (8) 来賓紹介 |
| (4) 学長式辞 | (9) 祝電披露 |
| (5) 奈良県知事祝辞 | (10) 閉式の辞 |



入学者 全200名
(医学科105名、看護学科80名、看護学科編入生15名)

さあ始まるぞ医大生活！ ～新入生オリエンテーション～

医学科105名、看護学科95名（編入3年生15名を含む）の新入生を対象に、4月8日（水：入学式）の午後から「新入生オリエンテーション」を行いました。講義等履修や学生生活に関する説明の他、体育会、文化会主催によるクラブ紹介も行われ、新入生は大学に対する理解を深めるとともに、学校生活への不安が少しは取り除かれたようです。

また、医学部（4月9日～10日）、看護学科（4月10日～11日）に分かれて、宇陀市榛原区の「美榛苑」において1泊2日の宿泊研修を行いました。

両学科とも一日目には喜多医学部長、医学部では同窓会の国分理事も参加いただき、学生、教員がそれぞれ自己紹介を行い親睦を深めるとともに、医学部は薬理学の吉栖教授から「アルコール耐性」に関するお話を聞きました。看護学科は学生と教員、学生同士が夜遅くまで熱心に親睦を深め合いました。

2日目は医学部、看護学科とも、教育開発センター 森田教授による「コミュニケーションゲーム」を行い、グループワークの大切さを学びました。また、優秀な回答を行ったグループ、個人には賞品が贈呈されました。

オリエンテーションはのべ3日間の短い時間でしたが、両学科の学生とも教員や新しい友人と大いに語り、議論を行い、これからの学生生活に向けて充実した時間をすごせたのではないかと思います。この経験をこれからの学生生活にぜひ役立ててください。



美榛苑にて

文部科学省・厚生労働省による医学教育の見直しについて

教育開発センター 森田 孝夫



過去およそ10年にわたって日本の医学部・医科大学は文部科学省・厚生労働省の指導に沿って医師養成のためのカリキュラムの改革を行ってきました。それはモデルコアカリキュラムの導入、共用試験の実施、臨床研修のためのマッチング（研修医と研修施設とをマッチさせる全国的な取組）、臨床研修の必修化などです。しかし、つい最近、また新たな改革を行うことを求めてきています。これは平成16年度から施行された新医師臨床研修制度が医師の偏在を招き、地域医療の崩壊等を導いたとの考えからそれを是正するための措置と考えられます。

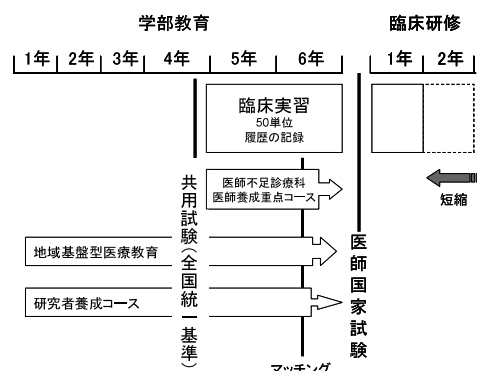
厚生労働省は平成21年4月28日に医師臨床研修制度の見直しのために省令の一部を改正しました。これにより臨床研修制度を弾力的に運用することができるようになりました。研修期間（現状は2年間）が実質1年間に短縮したことになります。これに引き続いて文部科学省は平成21年5月1日付で「臨床研修制度の見直し等を踏まえた医学教育の改善について—医学教育カリキュラム検討会意見のとりまとめ—」（通知）を公表しました。これは文部科学省と厚生労働省とが綿密に連携して進めていることを示しています。つまり、両省が求めている改革は卒前と卒後の医学教育を継続性のある一連のものとして捉えているので、この二つを切り離して個別に考えることはできないということです。今回はこれらの施策が求める改革について簡単に述べたいと思います。

2年間の臨床研修制度を1年間に短縮する前提として、卒前の学部教育における臨床実習を充実させる必要があります。そこで、①臨床実習を50単位（1500時間）以上行うことを大学設置基準で義務付ける（従来の平均実習時間は1200時間：注1）、②共用試験に統一的な合格基準を設定して合格者に証明書を発行する（従来は各大学で合格基準を設定できた：注2）、③実習内容（成果）の履歴を記録・蓄積して臨床研修に反映させる（今後マッチングの際に実習履歴の提出が求められる可能性がある）、④これらを実践するために指導体制を強化するなどが提言されています。さらに、⑤地域医療を担う医師を養成するための体制を地域の医療機関と一体となって構築する、⑥医師不足診療科等の医師養成重点コースを設定する、⑦研究マインドを涵養する有機的な教育システムを設置するなどが提言されていて、これらを実際のカリキュラムに取り入れることを求めています。

本学医学科のカリキュラムに照らして考えてみますと、十分に対応できているもの〔①〕、現在進行中のもの〔⑤、⑥、⑦〕、まだ不十分でこれから対応すべきもの〔②、③、④〕に分けられると思います。これを見てかなり対応できていると考えるか、まだ不十分であるかと考えるかは立場によって変わるのではないかと思います。わたくしの立場ですと「他大学に比較してかなり対応できている」のではない

かと思っています。これまでの学内関係者各位のご尽力によることと感謝いたします。医学教育の改善充実に向けて今後ともご協力のほどお願い申し上げます。

図 臨床研修制度の見直し等を踏まえた医学教育の改善
(平成21年5月1日 医学教育カリキュラム検討部会、文部科学省)



注1) 「臨床実習50単位」の意味：臨床実習の単位は週30時間を1単位とすることが一般的です。臨床実習は1年間で40週行われるので40単位が取得できます。つまり、第5学年から臨床実習を開始するとすれば1年間では40単位しか取得できないので、第6学年で残りの10単位を取得できるようなカリキュラムが望まれているということです。

注2) 「共用試験の全国統一基準」：現在の臨床実習は” on the job training(OJT)”で行われています。つまり医学生は医療に参加しながら学びます。医学生が医療に参加できる能力を備えているかどうかをテストするのが共用試験です。通常は第4学年の終わりに受験します。これを全国統一の合格基準で判定するということは、第4学年の終わりで国家資格試験を受けるということと同じ意味を持ちます。医師になるには医師国家試験を2回受けなければならない制度に変わるわけです。

研究の行方

研究部長 小西 登



独立行政法人化が2004年国立大学から始まり、昨今ではその功罪や今後の課題が提言されるようになってきました。本学においては、法人化の流れをみながら遅いスタートをきった訳ですが、余力の小さい地方単科大学としては少ない運営交付金のもと、病院の収益に頼らざるを得ないのが現状です。多くの大学がそうであるように、法人化を契機として外部資金の獲得が求められ、産学官連携が重要視されるようになってきました。

外部資金は全学的取り組みを要する21世紀COEプログラムや教育GPとともに、文部科学省（日本学術振興会）の科学研究費や企業との受託研究費、研究助成金などがありますが、本学ではこれらの外部資金獲得に向けた申請要請、募集案内や説明会を行ってきました。しかしながら、本年度の科学研究費獲得においては減少傾向がみられ、資金獲得に向けた学内体制が十分戦略的になっていない可能性もあります。

もともと科学研究費にせよ受託研究費にせよ、外部資金の獲得は個々の研究者の能力と自発性に委ねられ、研究費はその研究者の目的に沿って使用されてきました。しかし、法人化後はその競争的資金獲得のため、4割を超える国立大学が全学的取り組みをしており、申請のない教官に対する種々の対応、例えば、予算配分時における減額や傾斜配分などのインセンティブ制度を導入し始めております。これは科学研究費などの競争的資金獲得が、大学の研究能力の高さをはかる具体的尺度とみなされ、COEやGPの登場がこれに拍車をかけたと思われる。ただ、このような外部資金獲得重視の姿勢については、研究・教育に効率性と成果至上主義をもたらし、マイナーで独創的な研究の発想を摘みかねません。この点に十分配慮しながら、本学が「全学的な戦略と方針」をたてて臨まねばならないと思います。

同時に重要なことは、これらを支える研究者の養成です。医師不足、とりわけ医師の偏在による地域医療の崩壊で、急遽医学部定員の増員がなされましたが、いくら増員したところで、研究者の増員には繋がりません。研究者養成については、旧帝大を中心とした「MD-PhDコース」があり、医学科4年次終了後に大学院に進学し、博士号の学位（PhD）取得後、医学科5年に復学して臨床医学に戻り医師の資格（MD）を取得するコースが設定されています。また、東京大学では2009年から「MD研究者育成プログラム」という研究者養成を主眼においたカリキュラムが開始されました。本学では研究室配属が行われていますが、断片的で成果もはっきりしません。今後、6年一貫教育の中にリサーチメンター制度などを創設し、学生の研究力養成に取り組むことで、少し先になるかもしれませんが、大学院の充実にも結びつくと思います。

法人化後の大きな変化の1つとして先に述べました産学官連携がありますが、先行する国立大学の4分の3は既に産学連携本部とコーディネーターの設置、シーズ集の作成、交流会の開催などが実施されています。本学も産学官連携推進委員会の1年間の論議をふまえ、本年4月から知的財産アドバイザーも配置されました。産学官を通して、本学が地域に貢献するために、今後積極的な参加が望まれます。

研究者の養成、大学院の充足と外部資金獲得への努力、産学官への積極的参画がなければ奈良医大の研究面における発展はないと信じておりますし、これを放棄することは、本学が単なる医師養成学校になることを意味していると思います。



【ホオジロ通信のいわれ】

ホオジロの鳴き声は「イッピツケイジョウツカマツリソウロウ（一筆啓上仕り候）」と聞こえるといわれます。本学教職員および関係者の皆様に一筆啓上仕るという意味で、この欄をホオジロ通信と名付けました。

就任あいさつ



整形外科学 教授 田中 康仁 (たなか やすひと)

平成21年6月1日付けをもちまして、整形外科学講座を担当させていただくことになりました。その重責に身の引き締まる思いでございます。これまでに培われた伝統を大切に、大学と整形外科学教室がさらに発展できるよう誠心誠意努力いたします。

私は足部と足関節の疾患を取り扱う「足の外科」という分野を専門にいたしております。またこれから派生し、再生医学、スポーツ医学、リウマチ学、血友病性運動器疾患の分野にも専門を広げ研鑽を積んで参りました。当教室には、足、手・マイクロサージャリー、肩関節、股関節、膝関節、脊椎、骨・軟部腫瘍の7つの診療班があります。各班をさらに活性化することで県民の健康に貢献し、また奈良医大からの情報を世界に発信できるように頑張ります。医師としての使命感や人間性を養うことに重点を置いて学生、研修医諸君を教育し、将来の奈良医大を担ってもらえる人材を育成いたします。

どうぞ皆様の暖かいご支援、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



第一解剖学 教授 西 真弓 (にし まゆみ)

平成21年8月1日付けで、第一解剖学教室を担当させていただくことになりました。

私は、京都大学薬学部を卒業後、平成3年に京都府立医科大学を卒業し、麻酔科勤務を経て、京都府立医科大学・第一解剖学のスタッフとなり、教育・研究に携わってまいりました。今、大学は着実に力をつけ、短期・長期の両方の成果を上げ、国内外においてその存在をアピールしていかなければ、世間の評価に耐えられない厳しい時代になっています。私は、社会のニーズに対応できる質の高い、豊かな人間性と倫理感を持った医師、医学研究者の育成と共に、高度な医学を学ぶ基礎となる肉眼解剖学教育を重視しつつ、臨床を加味した臨場感溢れる教育を行って参りたいと思います。また、研究につきましては、ストレス応答と神経内分泌系の役割りとその分子メカニズムの解明を目指し、分子イメージングなども取り入れ、学際的研究を展開し、世界に向けて成果を発信していければと考えています。奈良医大と解剖学教室の発展のために、地道にそして精一杯努力して参りたいと思っておりますので、皆様のご指導・ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



参与（知的財産担当）の委嘱を受けて

研究推進課 参与（知的財産担当） 金崎 雄三郎 (かねざき ゆうざぶろう)

本年4月学長から参与（知的財産担当）の委嘱を受けました金崎です。私は、新日本製鐵株式会社とその関連企業で長い間知的財産や法務の仕事に携わり、この3月までの5年間鹿児島大学で客員教授・特任教授として知財管理体制構築の支援をして参りました。この度、特許庁大学支援事業の一環の大学知的財産アドバイザーとして本学の知財管理体制構築に参画することになりました。資源のない我が国が国際的な競争力を維持・強化するためには、特許などの知的財産が重要です。大学においてはさまざまな研究がなされ、発明につながるシーズが沢山あります。これらを知的財産として社会に還元することが大学の主要な使命の一つです。これから、教職員の皆様方とともに、本学の知財管理体制構築に向け、努力して参りたいと思います。



RI 新人教育訓練

毎年、4～5月にかけて、先端研に関係する先生方が講師となり、本学の研究者を対象に教育訓練を行っています。これは、総合研究棟の各施設（動物実験施設、組換えDNA実験施設、ラジオアイソトープ実験施設）において、研究を実施する際の必要な知識、ルール等を学ぶためのものであり、各施設の教育を受けた研究者のみが当該施設に入室して研究に伴う実験等を行うことができます。

なお、各施設ごとに実施しておりますので、内容、時期、場所等は研究推進課（内線2554、2556）までお尋ねください。

第16回中島佐一学術研究奨励賞の授賞式を開催しました

(研究推進課)

6月16日(火)、臨床第一講義室において、中島佐一学術研究奨励賞の授賞式が行われました。

今回の受賞者は、小児科学講座の野上 恵嗣講師、生理学第二講座の張 国興助教のお二人で、受賞者にはそれぞれ賞状、記念品の楯及び研究奨励金が授与されました。

引き続き実施された受賞者講演会では、受賞テーマに沿って、野上講師が「血液凝固第Ⅷ因子の構造・機能連関」血液凝固における第Ⅷ因子活性化・不活性化機構の解明と新たな凝固・抗凝固療法への応用に関する基礎研究」、張助教が「心肥大を伴う不全心形成におけるSERCA2と酸化ストレスの役割」というテーマで講演されました。

この賞は、故中島佐一名誉教授のご遺族からの寄附金を財源として、医学の学術研究に優れた業績をあげた本学の若手教員に対して授与し、さらなる研究の発展を奨励することを目的としています。

毎年、各所属に応募要項を案内しておりますので、若手教員の積極的なご応募をお待ちしております。



後列：左より推薦者の高木教授、嶋教授
前列：左より張助教、吉岡学長、野上講師

平成21年度住居医学研究奨励金交付決定一覧

番号	題目	所属	番号	題目	所属
1	高齢者のQOLと住居環境に関するコホート研究－藤原京スティー	地域健康医学	14	在宅患者QOLを規定する骨格筋萎縮の調節機構の研究	先端医学研究機構 循環器システム医科学
2	住居内微生物環境による免疫機能制御法の開発	細菌学	15	子育てに適した住居環境評価の分子生物学的基盤研究-住居環境におけるオキシニン発現調節物質のスクリーニング	生化学
3	ハウスダスト・シックハウスに関する研究	住居医学	16	高感度DNA二本鎖切断検出法を用いたシックハウス症候群原因関連化学物質の生物影響研究	生物学
4	新生児・小児の入院患者・看護環境に適した病棟設計と病児の在宅療育・介護の住居環境設備に関する研究	総合周産期産科センター 新生児集中部門	17	住居の風通しが生活習慣病に及ぼす影響	第一解剖学
5	住環境物質が皮膚アレルギーに及ぼす影響についての免疫学的研究	皮膚科学	18	温度環境条件に伴う排尿機能変化	第二生理学
6	高齢者向けの快適住居環境作りとその臨床的評価	老年看護学	19	内装材に含まれる酸化チタンの毒性評価	分子病理学
7	聴・平衡覚と住居環境に関する研究	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	20	喫煙が細胞膜受容体に与える影響－外膜蛋白質の特異的定量法の検討	薬理学
8	住居における環境放射線の研究	放射線腫瘍医学	21	シックハウス主要原因物質であるホルムアルデヒドが心血管系の転写調節に与える影響	先端医学研究機構 循環器システム医科学
9	胎児期および乳幼児期の室内大気汚染物質が喘息発症に及ぼす影響についての検討	臨床病態医学	22	在宅妊婦健診システム構築に関する研究	産婦人科学
10	フィトンチドによる抗細胞傷害分子機構の解析	第一解剖学	23	芳香浴がもたらす自律神経の変化の基礎的研究	基礎看護学
11	住居と心 - 住居が心(脳)に及ぼす影響 -	第二解剖学	24	幼児期の家庭内喫煙による室内大気汚染環境についての研究	地域看護学
12	住居環境における匂いの快・不快の感覚に関する基盤研究	先端医学研究機構 脳神経システム医科学	25	インフルエンザ対策に関する研究	感染症センター
13	外来化学療法室におけるがん治療患者に対する音楽の効果に関する研究	腫瘍センター (総合医療学)	26	就寝中および起床後血圧におよぼす室温の影響に関する実験的研究	地域健康医学

第29回住居医学研究会を開催します！

日時	平成21年7月24日(金) 16:00～17:30	講師	日本大学理工学部建築学科 教授 池田 耕一 氏
演題	医学と住環境	会場	基礎医学校舎5階会議室

カントにおける歴史と最高善

教授 豊田 剛



免疫力の不足のため、ニーチェの毒にもろに当たり、哲学などという「緑の牧場で枯草を食む」と揶揄される仕事をはじめて40余年。そのうちかなりの部分をカントの研究に費やしてきた。本学でも「カントの歴史哲学」と題する論文を15回紀要に連載した。テーマは多岐にわたるが、そのうちの一つ「最高善 (das höchste Gut)」をとりあげてみよう。

「道德とは何ぞや」という難しい問題はさておき、普通、人は道徳的に正しい生き方をすべきだと考える。しかしそれと幸福は果たして結びつくのであろうか。というのも世間では悪人が栄え、善人が災難に合うことなど少しも珍しくないからである。そこで「道徳的に正しい人が幸福に与る」というあって然るべき事態、つまり「最高善」が可能なのかどうか、いかにすれば可能なのか、という問題が生じる。

この問題は昔から人々の関心の的であったとみえ、類型は少なくない。その「原型」は、多くの宗教が教えてきたように、正しい者には褒美として「幸福」が与えられ、不正な者は罰として「不幸」になるという何の根拠もない命題である。そしてそれを保証するものとして決まって「神」や「あの世」が持ちだされてきた。人間のふるまいの全体を誤りなく評価し、「正義」を遺漏なく実行できるのは全知全能の「神」をおいて他にないからである。しかし現実の世界をみわたしても、「この世」の地獄ならいくらでもあるが、「正義」が行われているとは考えにくい。それは「神」の存在を疑わせるに十分である。その難点を避けるために「あの世」が発明される。「この世」で解決できない問題は「あの世」で解決されるのだと。

この「原型」と称すべき発想は、怪しげな論理ではあるが、一概に否定すべきものでもない。なぜなら「正しい者はそれにふさわしい報いを受けてしかるべきだ」というのは、至極まっとうな感覚だからである。それが間違いなくカントの思考にも影をおとしている。それは「釣り合い」という発想に顕著にうかがわれる。道德と幸福が釣り合うなどという考え方は本来カントの論理からは出てこない。『純粋理性批判』『方法論』でそれに近い考え方が提示されているが、明らかに勇み足の感をまぬがれない。『実践理性批判』『分析論』に代表される批判期の思想では、道德法則は人間に無条件になすべきことをなせと命令する。そこから何か報いを期待することなどいささかもあってはならない。結果を考えるようでは動機が不純になるからである。要するに結果など一切顧慮せずなすべき義務を果たせというのが「定言命法」なのである。ここから「釣り合い」など出てきようがない。そこをなんとか克服すべく、「弁証論」では道徳的努力を継続するために「魂の不死」が、また「釣り合い」を保証する者として「神」の存在が要請される。ただこれでは「最高善」の実現は「別の世界」でとなるしかない。しかし「あの世」といった別次元に問題を移して解決済とするのは誤魔化し以外の何ものでもない。「最高善」の議論で肝要なのは、それが「いつ」「どこで」「いかに」成就されるのかという点である筈なのに、その肝腎要の点がたいていの議論ではぐらかされがちである。「この世」の矛盾は「この世」で解決されねば意味はない。「神」や「あの世」といった妄想で帳尻合わせをするのではなく、「この世」の問題は「この世」で、即ち未来を含む歴史の場でケリをつけねばならない。そして「最高善」の実現は「彼岸」においてではなく「此岸」でという問題意識にそう方向性をカント自身の論理によって基礎づけることは困難ではない。それはいうまでもなく「歴史」という視点を何より重視することによって、即ち『歴史哲学小論集』、『判断力批判』、『単なる理性の限界内における宗教』等の諸論考に着目することによって十分可能であると考えられる。

がんの生物学 「p53を中心としたがん治療の基礎研究」

教授 大西 武雄



生物学教室は未知の生命現象を世界で誰よりも早く知りたいという気持ちを原動力に、(1)分子環境生物学、(2)宇宙生物学、(3)がん治療の基礎研究の3つの大きなテーマの研究に励み、夢や生き甲斐を分かち合い、目標を達成した時の感動を共有することのできる研究環境にある。ここでは「p53を中心としたがん治療の基礎研究」について紹介する。

がん細胞のがん関連遺伝子背景の違いによって、がんの治療効果に大きく影響することが予想される。がんの治療効果予測、さらには治療効果向上をめざして、我々はがん抑制遺伝子p53の役割に注目し、先端技術を駆使して研究を進めている。p53遺伝子のpはタンパク質(protein)、53は分子量53kDaを意味し、393個のアミノ酸からなるタンパク質をコードし、進化的に保存されており、昆虫や軟体動物にも存在している。p53タンパク質は細胞に与えられたストレスによって活性化され、生命活動の原点といえるDNA合成を停止してDNA修復を引き起こし、修復の限度を超える時はアポトーシスを誘導することで、「ゲノムの守護神」として、がんの発症と悪性を抑制している。実際、半数以上の悪性腫瘍において、p53遺伝子の異常が認められている。培養細胞レベルおよびマウス個体を用いた移植腫瘍レベルで、p53遺伝子正常型のがん細胞に比べて、欠損および変異型のがん細胞は放射線、抗がん剤のシスプラチン、温熱によってアポトーシスが誘導されにくくなり、治療効果が低くなると我々は報告してきた。患者さんの腫瘍細胞のp53遺伝子を調べることはがん治療の効果予測の先行指標になることを提唱してきた。

次に、治療効果が望めない患者さんをいかに救うかを考え(図1)、p53遺伝子が異常ながん細胞には、p53遺伝子を導入することで、変異したp53タンパク質を持つがん細胞には正常なタンパク質構造に戻す分子シャペロンまたはp53C末端ペプチドと従来のがん治療との併用によってアポトーシスを誘導しやすくなり、殺細胞効果および腫瘍増殖抑制効果が高まることを報告してきた。また、X線やγ線などの低LET放射線と比べて、重粒子による高LET放射線を用いると、p53遺伝子非依存的アポトーシスが引き起こされ治療効果が高まると報告してきた。しかし、夢の放射線として期待されている重粒子による放射線照射装置は日本ではまだ数台しかなく、治療における経費も高く、多くのがん患者さんがこの装置の恩恵を受けることは困難と考える。そこで、重粒子線治療をうけた細胞で発現する遺伝子の中から、p53非依存的アポトーシス誘導にかかわる遺伝子を同定することができれば、重粒子線照射装置を用いなくても、多くの患者さんの治療効果の向上につなげることが可能と考えている。

現在も、しびれるような研究テーマに魅せられた学内外の多くの先生方および院生・学生を交え、日夜活発な研究とディスカッションに明け暮れている。

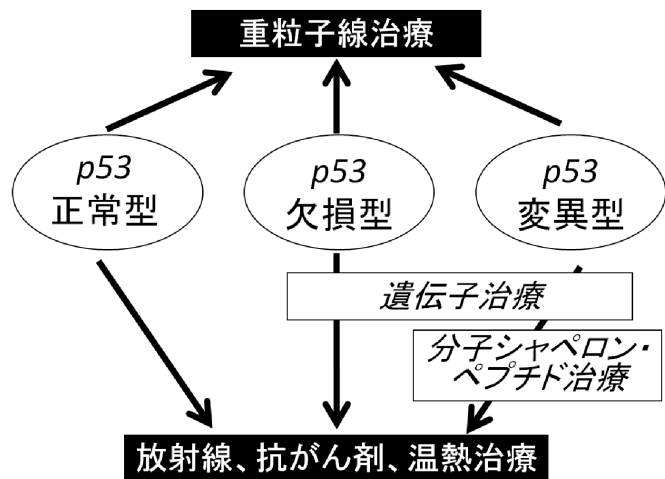
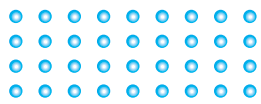
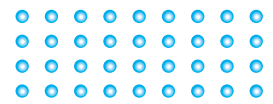


図 1. p53 遺伝子型が異なった患者にそれぞれ異なった治療法を



平成21年度 科学研究費補助金の決定



(研究推進課)

平成21年度科学研究費補助金(文部科学省、(独)日本学術振興会)が決定しました。ただし、新学術領域研究及び若手研究(スタートアップ)等を除く平成21年5月1日現在の状況です。

採択件数は116件、金額は直接経費168,880千円、間接経費43,890千円、合計212,770千円で、平成20年度と比較するといずれも減少(件数△7.1%、金額△9.6%)しており、平成18年度の法人化前と比較すると、採択件数は増加(21.9%)しているものの、金額については減少(△7.0%)している状況です。

来年度に向けて、更なる申請をよろしくお願ひ申し上げます。

研究種目	教室名	職名	氏名	課題名	研究期間
特定領域研究	生命システム医科学	教授	坪井 昭夫	マウス嗅覚系におけるCO2センサーの新規動作機構の解明	21~22
基盤研究B	附属病院	病院長	榎 寿右	血管新生因子抑制による脳梗膜動脈硬化の治療に関する研究	18~21
基盤研究B	病理病態学	教授	小西 登	ヒト前立腺の組織幹細胞を用いた癌化の分子メカニズムに関する研究	19~21
基盤研究B	第二内科学	教授	木村 弘	睡眠時無呼吸による低酸素ストレスは全身性炎症を惹起し動脈硬化を促進させる	19~21
基盤研究B	放射線腫瘍医学	教授	長谷川 正俊	放射線感受性の腫瘍内不均一性に関する分子生物学的解析	19~21
基盤研究B	健康政策医学	教授	今村 知明	健康被害リスクへの過剰反応の発生確認と予測手法等の開発	20~22
基盤研究B	第一内科学	教授	斎藤 能彦	心腎連関の基盤たる分子機序の解明	20~22
基盤研究B	生物学	講師	高橋 昭久	温熱耐性獲得における細胞核ダイナミクス変化の解明	20~22
基盤研究B	生物学	教授	大西 武雄	放射線適応応答の分子機構の解明	21~23
基盤研究B	消化器・総合外科学	教授	中島 祥介	臓器受容および組織再生における血管新生機構の包括的解明と新規免疫制御法の開発	21~24
基盤研究C	第一生理学	教授	山下 勝幸	細胞内カルシウムストアの膜電位変化による細胞間シグナリング	19~21
基盤研究C	第三内科学	教授	福井 博	マクロファージと肝障害:Toll-like受容体制御による新規治療の探索	19~21
基盤研究C	輸血部	准教授	松本 雅則	造血幹細胞移植後TMA/VODの成因解析	19~21
基盤研究C	精神医学	准教授	定松 美幸	モデル動物を用いた自閉症治療法についての検討	19~21
基盤研究C	胸部・心臓血管外科学	講師	吉川 義朗	重症不全心に対するRNAiと超音波を組み合わせた新しい遺伝子導入治療法の開発	19~21
基盤研究C	脳神経外科学	教授	中瀬 裕之	脊髄損傷に対する胚性幹(ES)細胞を用いた再生治療	19~21
基盤研究C	整形外科	准教授	矢島 弘嗣	再生医療技術を用いた血管柄付き移植骨増大の試み	19~21
基盤研究C	基礎看護学	講師	青山 美智代	看護技術の修得レベルを適切に評価する取り組み	19~22
基盤研究C	健康政策医学	講師	御興 久美子	アカデミック・ハラスメント環境評価基準の策定とそれを用いた点検評価方法の確立	19~21
基盤研究C	第二解剖学	講師	辰巳 晃子	脳に分布する新規細胞外マトリックス構造の組織化学的解析	20~22
基盤研究C	第一生理学	講師	和田 佳郎	高速運動物体に対する動物視力の年齢的変化とその神経機構の解明	20~22
基盤研究C	保健体育	准教授	石指 宏通	高齢者のスポーツ活動における血栓形成機序の解明と予防策の構築	20~22
基盤研究C	教学	教授	藤本 圭男	射影代数多様体上の自己準同型写像の研究	20~22
基盤研究C	薬理学	教授	吉栖 正典	メタボリックシンドロームにおける酸化ストレスの関与の証明と新しい抗酸化療法の開発	20~22
基盤研究C	分子病理学	教授	國安 弘基	アンジオテンシン活性化機構を標的とする大腸癌肝転移治療戦略の確立	20~22
基盤研究C	地域健康医学	教授	車谷 典男	医療職に向けられた暴力的言動の発生件数の把握とその疫学的解析	20~22
基盤研究C	麻酔科学	助教	田中 優	手術室データをもとにした新しい病院コストモデルの作成	20~22
基盤研究C	第三内科学	講師	吉治 仁志	レニンアンジオテンシン系の慢性肝疾患におけるクロストークと治療への応用	20~22
基盤研究C	中央臨床検査部	講師	山崎 正晴	肝硬変腹水病態への腹腔マクロファージおよび反応性中皮細胞の関与	20~22
基盤研究C	第三内科学	准教授	植村 正人	重症肝疾患におけるADAMTS13の動態解析と制御機構の解明	20~22
基盤研究C	第二内科学	准教授	吉川 雅則	慢性閉塞性肝疾患の全身性炎症における肺-消化管ネットワークの意義	20~22
基盤研究C	第二内科学	助教	友田 恒一	力学的呼吸負荷に対するヒト肺構造維持のメカニズム:コラーゲン線維三次元配列の解析	20~22
基盤研究C	神経内科学	教授	上野 聡	神経変性疾患におけるDNA修復能の検討と修復促進による治療基盤の確立	20~22
基盤研究C	小児科学	准教授	田中 一郎	抗第VIII因子インヒビターに対する免疫療法の効果発現機序に関する研究	20~22
基盤研究C	小児科学	教授	嶋 緑倫	第VIII因子活性増強抗体を用いた血友病A新規抗体療法に関する基礎的研究	20~22
基盤研究C	総合周産期母子医療センター新生児集中治療部門	教授	高橋 幸博	新生児の血栓・DICの病因解明と治療法開発の基礎および臨床的研究	20~22
基盤研究C	先端研・RI	准教授	森 俊雄	XPD変異を共通する二つの遺伝疾患でなぜ紫外線皮膚発がん感受性が異なるか?	20~22
基盤研究C	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	悪性黒色腫の転移におけるコネキシン26の役割の研究と転移阻害薬の開発	20~22
基盤研究C	中央放射線部	准教授	田岡 俊昭	アルツハイマー病での辺縁系回路の拡散テンソル異常-臨床症状・予後との関連一	20~22
基盤研究C	生物学	准教授	大西 健	変異型p53細胞を標的としたsiRNAによる放射線/温熱/抗がん剤増感の研究	20~22
基盤研究C	分子病理学	博士研究員	大森 斉	温熱療法による癌幹細胞の抑制と治療への応用の検討	20~22
基盤研究C	整形外科	講師	朴木 寛弥	骨軟部腫瘍における腫瘍幹細胞の単離と新たな分子標的療法の試み	20~22
基盤研究C	集中治療部	助教	佐々岡 紀之	新生児中枢神経における麻酔薬の神経毒性の検討	20~23
基盤研究C	産婦人科学	准教授	大井 豪一	羊水塞栓症診断のための新規マーカー探索と診療ガイドライン作成	20~22
基盤研究C	産婦人科学	講師	山田 嘉彦	新規分子標的抗腫瘍薬としてのサリドマイドを用いたオーダーメイド卵巣癌治療戦略	20~22
基盤研究C	産婦人科学	教授	小林 浩	子宮内膜症の癌化を規定する原因遺伝子の解明と臨床的診断法の確立	20~22
基盤研究C	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	太田 一郎	頭頸部がんにおけるmTOR阻害薬による放射線増感効果の基礎的研究	20~22
基盤研究C	口腔外科学	医員	杉浦 勉	インプラント埋入直後および骨結合後の周囲骨のリモデリングに動的荷重が与える影響	20~22
基盤研究C	生命システム医科学	教授	中川 修	新規リン酸化酵素の骨格筋疾患における病態生理学的意義の研究	20~22
基盤研究C	生命システム医科学	教授	坪井 昭夫	嗅覚系における神経幹細胞の嗅細胞への分化と個性獲得の分子機構	20~22
基盤研究C	総合医療学	准教授	神野 正敏	超音波による分子標的治療増強効果の臨床応用に関する研究	21~23
基盤研究C	(看)哲学	講師	池辺 寧	看護倫理学の基礎づけとなるハイデガーの根源的倫理学についての研究	21~23
基盤研究C	病理病態学	准教授	中村 光利	悪性神経膠腫新規治療法選択に必要な病理診断に関する研究	21~23
基盤研究C	分子病理学	博士研究員	藤井 澄	胃癌前癌病変であるテロメア短縮病変における遺伝子異常	21~23

研究種目	教室名	職名	氏名	課題名	研究期間
基盤研究C	第一内科学	講師	上村 史朗	慢性腎臓病に合併する高度動脈硬化症に対する創薬標的としての可溶性FLT1の研究	21~23
基盤研究C	(看)臨床病態医学	教授	濱田 薫	妊娠中の大気汚染曝露による喘息発症要因の母子間伝達とその制御機構の解明	21~23
基盤研究C	第一内科学	講師	岩野 正之	DSP1陽性ボドサイトによる糸球体保護作用に関する検討	21~23
基盤研究C	第一内科学	助教	久保 篤史	胚性幹細胞を用いたエリスロポエチン産生細胞の同定と単離	21~23
基盤研究C	神経内科学	准教授	平野 牧人	神経変性疾患原因蛋白の相互作用、翻訳後修飾、細胞内局在の検討と治療の応用	21~23
基盤研究C	小児科学	講師	野上 恵嗣	第Ⅷ因子活性化・不活化機構の解明と新規凝固・抗凝固薬への応用に関する基礎的研究	21~23
基盤研究C	精神医学	博士研究員	井上 雄一朗	未分化増殖細胞が摂食行動と体重に与える影響の解析	21~23
基盤研究C	精神医学	教授	岸本 年史	統合失調症患者におけるニューレグリン1機能の多角的解析	21~23
基盤研究C	精神医学	講師	法山 良信	統合失調症モデルラットにおけるフォスファチジルイノシトール系の関与について	21~23
基盤研究C	消化器・総合外科学	講師	庄 雅之	消化器癌における獲得免疫機構の解明と外科との融合を目指した新規癌治療戦略の開発	21~23
基盤研究C	消化器・総合外科学	助教	山田 高嗣	微小重力環境を用いた多能性幹細胞の腸管神経分化誘導による新しい幹細胞移植法の開発	21~23
基盤研究C	消化器・総合外科学	准教授	高 濟峯	血友病根治療法としての異所性生体部分肝移植の可能性	21~23
基盤研究C	麻酔科学	助教	河野 安宣	ラット前脳虚血モデルにおけるプロピルガレートの脳保護効果に関する研究	21~24
基盤研究C	泌尿器科学	准教授	藤本 清秀	光学的診断を用いた尿中分離腫瘍細胞の遺伝子変異解析システムの開発	21~23
基盤研究C	泌尿器科学	講師	石橋 道男	新規ガンマラクタン化合物とサイトカインにより誘導される腎固有の修復再生機構の解明	21~23
基盤研究C	消化器・総合外科学	准教授	金廣 裕道	組織工学を活用した神経幹細胞によるヒルシュスプルング病に対する新たな治療戦略	21~23
基盤研究C	救急医学	准教授	西尾 健治	ADAMTS13の血液流動下における活性発現と抗炎症作用	21~23
基盤研究C	口腔外科学	准教授	山本 一彦	マイクロRNAを標的とした新たな口腔癌の化学予防法の開発	21~23
基盤研究C	口腔外科学	講師	川上 正良	顔面骨格の形態パターンニングを制御する分子機構	21~23
基盤研究C	基礎看護学	教授	藤田 比左子	看護職によるスタンダードプレコジョンの実践内容の修得と継続性に関する介入研究	21~23
基盤研究C	(看)地域看護学	講師	入江 安子	知的発達障害児とその家族を支援するコミュニティレジリエンスの育成	21~24
基盤研究C	(看)精神看護学	講師	木村 洋子	うつ病者家族を対象とした心理教育プログラムの開発及び評価	21~23
挑戦的萌芽研究	第二生理学	助教	松吉 ひろ子	新たに発見された脳に分布する細胞マトリックス構造の機能解析	20~21
挑戦的萌芽研究	生物学	教授	大西 武雄	神経がん幹細胞のp53依存的放射線/抗がん剤/温熱感受性の検討	20~22
挑戦的萌芽研究	第二生理学	教授	高木 都	損傷した腸管支配自律神経再生の試み	20~21
挑戦的萌芽研究	産婦人科学	助教	古川 直人	大豆蛋白成分の網羅的解析による早産予防効果の実証実験	20~21
挑戦的萌芽研究	寄生虫学	非常勤講師	木本 誠	マウス難聴モデルを用いた内耳再生の試み	20~21
挑戦的萌芽研究	第二解剖学	教授	和中 明生	大脳皮質の臨界期を制御する新規プロテオグリカン類の同定と機能解析	21~22
挑戦的萌芽研究	化学	教授	大崎 茂芳	クモの糸の大量収集に向けての新しい技術開発	21~23
挑戦的萌芽研究	第一内科学	教授	斎藤 能彦	右心不全発症に関与する新規遺伝子の探索とその機能解析と医療への応用	21
挑戦的萌芽研究	消化器・総合外科学	教授	中島 祥介	膵癌幹細胞を標的とした新たなBiTE抗体の開発	21~23
挑戦的萌芽研究	麻酔科学	医員	林 浩伸	非眼科的手術後の眼障害についての検討	21~23
挑戦的萌芽研究	産婦人科学	助教	金山 清二	マイクロアレイ・プロテオミクス技術を駆使した卵巣がんの予後規定因子の網羅的探索	21~22
挑戦的萌芽研究	寄生虫学	准教授	吉川 正英	サルES細胞から内耳有毛細胞の効率的なin vitro分化誘導法の開発	21~22
挑戦的萌芽研究	口腔外科学	教授	桐田 忠昭	口腔がんにおける重粒子線照射によるp53非依存アポトーシスのメカニズムの解明	21~22
若手研究B	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	阪口 剛史	微小振動音源を用いた発声装置の声質改善のための基礎的検討	19~21
若手研究B	生命システム医科学	助教	高橋 弘雄	一次嗅覚神経回路における領域特異性決定の分子機構	20~21
若手研究B	地域健康医学	助教	富岡 公子	職業性アスベスト曝露集団の死亡リスクに関する歴史的コホート研究	20~21
若手研究B	第一内科学	助教	染川 智	心不全における転写抑制因子NRSFの役割 心・副腎連関について	20~21
若手研究B	寄生虫学	助教	王寺 幸輝	成体マウス毛包幹細胞を用いた発毛再生とWntの役割	20~21
若手研究B	皮膚科学	助教	井本 恭子	毛髪がタイガーテールを呈するトリコチオジストロフィーの遺伝子変異と臨床症状の関連	20~21
若手研究B	放射線医学	助教	西尾福 英之	MRI画像(ECR法)を用いた腫瘍細胞に対する抗癌剤早期効果予測の基礎的検討	20~21
若手研究B	脳神経外科学	助教	西村 文彦	マウス脳腫瘍モデルを用いた免疫治療の検討	20~21
若手研究B	第二解剖学	助教	奥田 洋明	大脳皮質由来オリゴデントロサイト前駆細胞の分化多能性と移植後における動態解析	20~21
若手研究B	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	西村 忠己	骨導超音波を用いた補聴器システムの評価と臨床導入	20~22
若手研究B	口腔外科学	医員	稲掛 耕太郎	自己歯髄由来間葉系幹細胞を用いた唇顎口蓋裂患者の顎裂部の治療法の開発	20~21
若手研究B	生命システム医科学	助教	吉原 誠一	レンチウイルスベクターを用いた成体時における嗅覚神経回路形成機構の解析	21~22
若手研究B	病理病態学	講師	島田 啓司	膀胱癌における新規AktBホモログ蛋白hABH-8の機能解析	21~22
若手研究B	第三内科学	医員	森岡 千恵	急性膵炎重症化におけるADAMTS13の動態と制御機構	21~23
若手研究B	生命システム医科学	助教	林 寿来	血管系における新しい転写調節の分子機構と病的意義の解明	21~22
若手研究B	第二内科学	助教	山内 基雄	閉塞性睡眠時無呼吸症候群における病態多様性と新たな治療戦略—非線形解析を用いて—	21~23
若手研究B	精神医学	助教	澤田 将幸	事象関連電位による広汎性発達障害と注意欠陥多動性障害の併存の検討	21~23
若手研究B	胸部・心臓血管外科学	助教	内藤 洋	幅広い応用力を秘めた三次元培養心筋組織作成の試み	21~22
若手研究B	胸部・心臓血管外科学	研究員	田村 大和	生体位駆出心における心筋クロスブリッジ動態解析—放射光X線回折法による心不全評価	21~22
若手研究B	脳神経外科学	研究員	松田 良介	脊髄損傷に対するES細胞移植治療—骨髄間質細胞共移植の検討—	21~22
若手研究B	泌尿器科学	博士研究員	鳥本 一匡	SERCA2a遺伝子が排尿機能に及ぼす影響	21~23
若手研究B	産婦人科学	助教	成瀬 勝彦	アディポカイン・テクノロジーを用いた妊娠合併症の早期発症予知・治療法の開発	21~22
若手研究B	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	特別研究員	柳井 修一	補聴効果改善を目的とする残響知覚の検討	21~23
若手研究B	救急医学	助教	福島 英賢	全血流動下における血栓形成と炎症の連鎖に関わる分子機構解明	21~23
若手研究B	分子病理学	助教	笹平 智則	口腔癌の新規リンパ管新生マーカーMIAの機能解析	21~22
若手研究B	第二生理学	助教	小畑 孝二	内因性カルシニューリン抑制蛋白RCAN1の破骨細胞分化制御因子としての役割	20~21
奨励研究	眼科学	視能訓練士	榎田 浩三	臨床看護職員における心身の疲労と眼疲労の関連性—疲労による資格への影響—	21

アメニティ整備の状況

(医療サービス課)

■ 入退院・救急窓口がリニューアルしました



患者さんの入院手続きや退院時の精算、夜間・休日の救急患者の受付などを行っている入退院・救急窓口が新しくなりました。これまで旧態依然とした狭い窓口で対応していましたが、新しい窓口は夜間救急玄関に入って左側、オープンかつフラットな広いカウンターで、患者さんと同じ目線で対応ができるようになりました。

さらにカウンター前のオープンスペースには、患者さんご家族の待ち合わせ、会計やお薬などの時間待ちに利用いただけるよう、待合用の椅子をゆったりと配置しています。

入院や救急での受診は、ほとんどの方々にとって、非日常的な出来事です。このような場面における不安やとまどいを取り除き、安心して療養に専念することができるよう、スタッフの接遇の向上に努めるとともに、病院内の“癒し”の空間として、アメニティの向上を図ってゆきたいと考えています。

■ 総合相談窓口がオープンしました



医療サービス課相談係・医療相談室は夜間救急玄関に入って右側(従来あった場所の向かい側)に移転し、総合相談窓口・相談係としてリニューアルしました。総合相談窓口はオープンカウンターで、気軽にご利用頂けるようになり、さらに簡単な事務手続きはスピーディに出来るようになりました。サービス向上です。

また相談室を3室(従来は1室)に増設しましたので、ゆったりとした環境で相談などに対応出来るようになりました。引き続き医療・福祉・公費助成・がんに関する相談、病院や職員に対する意見・提言を承ります。

緊張の毎日ですが、笑顔で対応を心がけ、患者さん・職員の皆さんにほっとしていただける場の提供を目指します。

こんにちは、弘済団です。

広告

いつも売店、食堂、理容室、コピー機や自動販売機をご利用頂き誠にありがとうございます。

■ 売店では



職員学生割引として医大・病院の教職員、学生の皆様には、パン、弁当、飲料、お菓子、文房具、日用品などの商品を表示価格の1割引きで販売しています。どうぞご利用下さい。

また、店内・職員学生食堂では給湯や電子レンジをご利用していただけます。

営業時間のご案内

平日 午前8時 ~ 午後6時30分
土、日、祝日 午前8時 ~ 午後4時30分
(定休日はございません)

■ 食堂では



朝ごはん、食べてますか?

毎朝 朝定食をご用意しています。焼き魚、玉子焼き、納豆、みそ汁、ご飯等・・・日替わりでご用意しています。

お昼は、サービス定食を始め、麺類、丼物をご用意して皆様のご来店をお待ちしています。

また、定食を召し上がっていただく際には、かやくご飯も用意しております。

午後4時からは夕食用の定食をご用意しております。お仕事、勉強や研究の合間に温かい食事をお召し上がり下さい。

営業時間のご案内

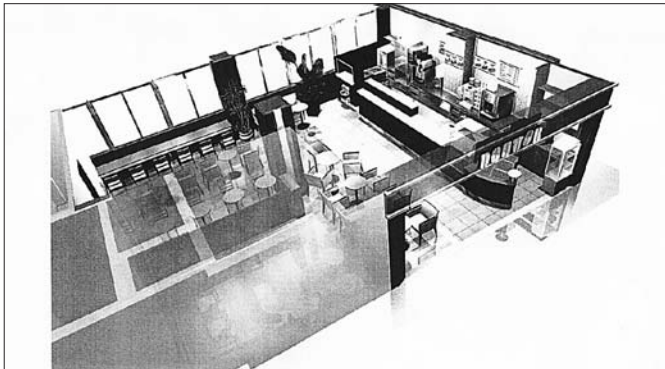
平日 午前8時30分 ~ 午後7時
土曜日 午前8時30分 ~ 午後1時
日曜・祝日は休業させていただいております。

どうぞごゆっくりおくつろぎください

～待望のコーヒーショップがオープンします～

(財団法人弘済団)

学内で検討されていましたが、いよいよ夜間救急玄関前に開設されることになりました。



入院、外来患者様へのサービス提供と教職員、学生の皆様の福利厚生向上を目的として、より相応しいコーヒーショップを設置するため、出店希望業者によりまずプレゼンテーションを行い、大学・病院からの審査委員の方々に投票して頂いた結果、ドトールコーヒーが選ばれました。

オープンは8月下旬の予定です。**営業時間は毎日 朝7時～午後8時30分**、もちろん**土曜日、日曜日、祝日も営業**させていただきます。

サイドメニューも豊富にご用意し、早朝の憩いのひと時に、夜の勤務、研究、勉学の休憩に、皆様の安らぎとリフレッシュにお役に立てれば幸いです。

事前にお声をかけていただければ、学内での各種会合に配達サービスをさせていただきますので、どうぞご利用くださいませ。

ドトールコーヒーショップ 内線3030

ドトールコーヒーショップ オープン



リーズナブルで、毎日でも飽きないカフェを出店することで、患者様とご家族の方、病院で働く全てのスタッフの皆様に「やすらぎと活力を提供したい」と考えております。

病院に関わるすべての方々の
笑顔のために

広告

この度、奈良県立医科大学、医科大学附属病院、財団法人弘済団様のご協力を頂くことによりドトールコーヒーショップが、1階夜間救急玄関前(旧入院、救急受付)にオープンすることが出来ました。奈良県下では6店舗目、奈良県の院内店舗として初の出店になります。

「一杯のコーヒーを通じてお客様に安らぎと活力をお届けする」を企業理念の基、患者様、職員の皆様、学生さんの方々にとって憩いと安らぎの場と満足を提供できればと考えております。

「ホット、一息・・・」、日常の小さな幸せ作りを出来る環境を目指して参りますので、お気軽にお立ち寄りください。スタッフ一同お待ち申し上げます。

DOUTOR

株式会社ドトールコーヒー

〒150-8412 東京都渋谷区神南1-10-1

店舗運営会社

 **WATAKYU SEIMOA**

ワタキューセイモア株式会社

〒600-8416 京都市下京区烏丸通高辻下る薬師前町707

めざせ7：1看護体制

(看護部から)

附属病院看護部では、「7：1」看護体制の導入を目標にしています。

この看護体制は、患者さんにとってはより手厚い看護が受けられる、看護師にとっては勤務にゆとりが生まれる、病院にとっては入院基本料の加算により収入がアップするというメリットがあります。

看護部では、看護職員を手厚く配置することにより、さらに安全で質の高い医療・看護の提供を目指しています。

今年度は新たに131名（新卒106名、既卒25名）のフレッシュな仲間を迎えることができましたが、「7：1」看護体制実現のため、引き続き、看護師・助産師の確保に努めます。

今回は、就職にあたり、多く寄せられる質問について、Q & A形式でお答えします。

Q1 新人研修は、どれくらい行われていますか？

A1 今年度から教育支援室を開設し、看護副部長2名・専任の看護師長1名・看護主任3名（兼務）を配置しました。ここを中心に厚生労働省の「新人看護職員研修 到達目標・指導指針」を基本として入職後5日間連続で、看護基礎技術研修を実施しています。項目は19にわたり、内容は採血・心電図・輸液ポンプの取り扱い・吸引などです。その後は、1ヶ月毎の集合研修を6ヶ月間実施しています。

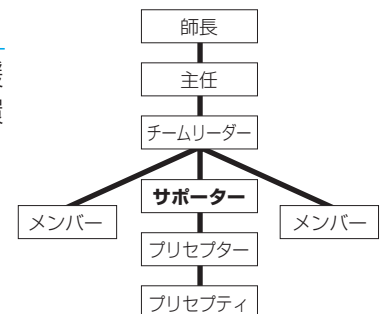


<今年度の技術研修風景>

Q2 病棟では、どのような指導体制ですか？

A2 プリセプターシップを実施しています。今年度からは、これを支援するサポーターという役割を作り、スタッフ全員での新人育成の環境作りを強化しています。

サポーター：新人と新人指導担当者の両者を支援
プリセプター：新人指導担当（主に精神面）
プリセプティ：新人



Q3 勤務体制はどのようになっていますか？

A3 ICU・NICUは3交代制勤務ですが、それ以外の部署は2交代制勤務です。日勤は8：30～17：15、夜勤は16：15～翌日9：15です。早出や遅出の変則勤務を導入している部署もあります。

Q4 病棟の見学はできますか？

A4 病院見学を随時受け付けていますので、ホームページから看護部へ電子メールで申し込んでください

詳しくは附属病院ホームページをご覧ください。

<http://www.naramed-u.ac.jp/~hp>

看護部採用サイトもご覧ください。

<http://www.naramed-u.ac.jp/~bosyu/kango/>

看護師 200名 助産師募集

病院説明会

7月23日(木)
8月6日(木)

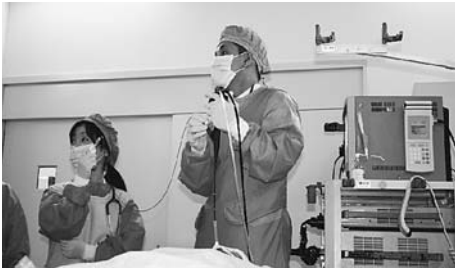
試験日/8月29日・30日

応募締切日/8月15日(消印有効)

病棟紹介

～活躍する看護師たち～

中央内視鏡・超音波部



中央内視鏡・超音波部は、輸血部・中央検査部採血室・リハビリテーション部・セカンドオピニオン・遺伝子カウンセリングの7部署を、看護師13名と看護助手1名が担当しています。検査・治療・採血及び相談室は、細かなタイムスケジュールが組まれています。

患者さんに検査・治療を安全で安心して受けていただけるよう、毎朝のカンファレンスで情報を共有し、余裕を持って行動できる体制づくりをしています。

私達は、患者さんに専門的な知識や高度な技術を提供できるように日々研鑽しています。

腫瘍センター



腫瘍センターは、外来化学療法室と緩和ケア外来の2部署から成ります。

外来化学療法室は、がん化学療法と関節リウマチやクローン病に対するレミケイド療法を受けている患者さんが、外来通院をしながらでも安全で安楽に化学療法の点滴治療を受けるための治療室です。専任の医師と薬剤師そして看護師が、各診療科や他部門と連携を図りながら、より良い治療が提供出来るように取り組んでいます。

また、私たち看護師は、専門的な知識をもとに、患者さんやご家族が「その人らしく」治療に取り組む事が出来るような看護を提供できるよう心がけています。

緩和ケア外来では、がんと診断された時から、治療期・再発期・終末期など、さまざまな病期の患者さんとそのご家族を対象としています。医師、看護師、薬剤師等によるチームで、入院患者さんや在宅でお越しの患者さんにご家族が、どの場所でも安心して過ごせるようサポートしています。

私たち看護師は、患者さんの抱える身体症状、心理的・社会的・スピリチュアルな問題に対応し、患者さんにご家族が穏やかに過ごせ、QOLの維持・向上をめざしたサポートができるよう努めています。

高度救命救急センター

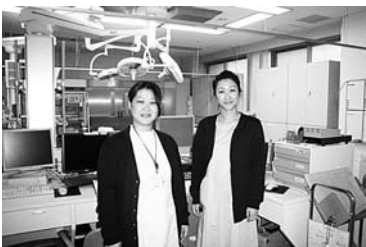


ICU

HCU



外来



高度救命救急センターには、救命センター外来・ICU・HCU含めて72名の看護師が働いています（そのうち16名が男性看護師です）。

初療を受け持つスタッフが様々な疾患の患者さんの命にかかわる救命処置を救命専門医や各科の医師と共に行い、時には開腹・開胸や体外循環を行います。救命処置後の患者さんはICU10床・HCU30床の救急病床に入院します。刻々と変化する患者さんの急性期治療や家族を見守る看護、社会復帰を展望した看護を行っています。スタッフは患者さんの人間性を尊重した関わりを心がけており、意識のなかった患者さんが歩いて家族と共に退院されたときや、患者さんから元気になったとお便りが届いたときに働き甲斐を感じます。

進む国際交流 ～第10回チェンマイ大学学生派遣～

今回で第10回目となるチェンマイ大学への学生の派遣が平成21年3月29日から4月7日の日程で実施されました。派遣された学生は現在医学科6年生(派遣当時5年生)の大野澄玲さん、大山寛毅さん、久保武志さん、舛田純子さんの4名であり、薬理学の吉栖教授に引率され、現地での研修、学生との交流、そして古都チェンマイとバンコクの視察と、充実した日々を過ごしました。

参加した学生からは、「チェンマイ大学の方々とはとても友好的で明るく、本当に楽しい時間を過ごすことができました」との声が寄せられました。

なお、今年度についても10月に説明会を実施し、参加学生の募集を行う予定です。



チェンマイ大学にて

来て、見て、聞いて、4月からは「医大生」～オープンキャンパスを盛大に開催～

前年度に引き続き、今年度も夏休み中の**8月8日(土)**にオープンキャンパスを実施します。

実施内容は、下表のとおりです。なるべく多くの方が参加されるよう、お知り合いにお知らせ下さい。

なお、主な対象者は、高校生及び受験生ですが、限定はしておりませんので、どなたでも参加していただけます。

また、実施にあたり関係の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

時間	実施内容
12:30～13:00	受付・施設見学申込み
13:00～13:50	講演会『医師・看護師を志す諸君へ』学長 吉岡 章
13:50～14:05	会場移動 ※医学科と看護学科で会場が別になります
14:05～14:10	学科紹介 医 学 科:喜多 英二医学部長 看護学科:飯田 順三看護学科長
14:10～15:00	在学生から受験生へのメッセージ
15:00～15:10	休憩
15:10～15:40	模擬ミニ講義 医 学 科 麻酔科学教授 古家 仁 看護学科 基礎看護学教授 藤田 比左子
15:40～17:00	施設見学 附属病院・総合研究棟・基礎医学校舎・看護学校舎等を見学
15:40～17:00	個別相談 教員による相談コーナー 在学生による相談コーナー

～ボランティア募集～

今年度も医学科・看護学科合同で実施します。

多数の参加者が見込まれますので、在学生の方で当日の受付、施設見学及び個別相談を手伝ってもらえる方を募集しています。ボランティアの受付は、**学務課厚生・入試係**で行っています。

受付締切日 7月31日(金)

「いざ」というときに備えて ～新規採用職員等消防訓練～ (財産管理課)

新規採用職員と転入者を対象とした消防訓練を5月21日に行いました。

今年は、対象者が例年の2倍となったため2日に分かれて実施しました。1回目となるこの日は98名の参加者が、中和広域消防組合檀原消防署員の指導のもと、水消火器と屋内消火栓を使用しての消火訓練や垂直式救助袋での降下訓練を体験しました。

いざというときに必要となる知識や技術を得るための訓練ですが、この経験を生かす必要がないことを願っています。



心から御礼申し上げます ～斎藤進様へ感謝状を贈呈～ (RI委員会)

みなさん、本学総合研究施設に「斎藤進記念実験室」があることにお気づきでしょうか。平成5年4月総合研究施設の開設にあたり、当時の学長 増原 建二先生を介して、施設の充実、特に機器の整備にと、当時の整形外科教室メンバーのご尊父であられる斎藤 進様(当時高取町在住)から、ご寄付・総額3億円を頂きました。当時の最新型の先端機器を数多く揃えることができました。おかげさまで、学内の研究者・大学院生が積極的にそれらの機器を利用し、世界に名だたるあまたの成果を発信することができました。

残念ながら昨年9月に斎藤様はご逝去されましたが、ご令室の愛子様はご健在でありますので、そのご霊前にと感謝状をお贈りしました。

このようなご厚情に深く感謝することは、より有効な研究成果を上げることであり、本学の質の向上に今後とも努力してまいります。

奈良県立医科大学学長 吉岡 章
RI委員会委員長 大西 武雄



承認された規程、委員会名簿等については、随時、ホームページにて公開しています。

学内ホームページURL（閲覧は学内のみ可能）

<http://top.naramed-u.ac.jp/>

「規程・名簿タブ」

は、公開ホームページに掲載

<http://www.naramed-u.ac.jp/aff/johokoukai/>

（総務課）

役員会及び教育研究審議会の報告

第1回 役員会（4月8日）

當麻一郎監事の後任として、伊藤一博監事の紹介（任期2年）

- 4月採用者を含めた看護師の配置状況等を報告
- 今年度予定される教授選考の進め方について、教育研究審議会において意見聴取することを決定
- 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 教員人事について
 - (2) 教員の留学について
 - (3) 研究部長の交代に伴う委員の変更について
- 平成21年度年度計画の一部修正を報告
- 卒業生の進路等を報告
- 入学予定者数を報告
- 科学研究費補助金交付内定（速報）を報告
- 住居医学研究奨励金交付決定について報告
- 救急玄関ホールの整備等の進捗状況を報告
- 奨励会職員の教室職員への移管状況を報告

第1回 教育研究審議会（4月9日）

- 教授選考スケジュールについて、今後の進め方等、選考の方向性を確認
- 5月1日付け教員人事を承認
- 放射線医学助教田中利洋氏の海外留学を承認
- 総合周産期母子医療センター助教春田祥治氏の国内留学を承認
- 研究部長の交代に伴う委員の変更について
 - (1) 研究用コンピュータネットワーク運営委員会委員の改選について学長一任を承認
 - (2) 動物実験委員会委員、ラジオアイソトープ委員会委員の交代を承認
- 平成21年度年度計画の一部修正及び知事への届け出を報告
- 医師及び看護師等の国家試験結果、看護学科学生の進路状況及び臨床研修医のマッチング結果を報告
- 各学科、大学院の入学予定者数を報告
- 病理診断学における外国人客員研究員の受入を承認した旨報告
- 科学研究費補助金交付内定状況の速報を報告
- 住居医学研究奨励金交付決定状況を報告

第2回 役員会（4月21日）

- 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 発明届について
 - (2) 研究用コンピュータネットワーク運営委員会委員の選任を報告
 - (3) 看護師6名の採用を決定

第3回 役員会（5月1日）

- 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 平成20年度業務実績報告書（案）について
 - (2) 発明届について
 - (3) 動物実験管理規程の一部改正（案）について
- 皮膚科・眼科病棟整備にかかる施工業者の決定を報告
- 新型インフルエンザへの対応を報告

第2回 教育研究審議会（5月7日）

- ラジオアイソトープ実験施設・森准教授より提出された発明届について、特許等を受ける権利の承継を決定
- 消化器・総合外科学・中島教授より提出された発明届について、特許等を受ける権利の承継を決定
- 先端医学研究機構施設部運営委員会委員の選任を報告
- 動物実験管理規程の一部改正を承認、5月7日付けで施行
- 研究用コンピュータネットワーク運営委員会委員の選任を報告
- 平成20年度業務実績報告書（案）を報告
- 系統解剖実習室におけるホルムアルデヒド対策を報告
- 科学研究費補助金交付内定状況を報告

第3回 教育研究審議会（5月12日）

- 整形外科学教授候補者として田中康仁氏を承認、役員会に答申

第4回 役員会（5月13日）

- 整形外科学教授として田中康仁氏を決定、6月1日付けで発令
- 平成20年度末での債権償却を承認
- 新型インフルエンザの発生に伴う教職員等の海外出張等の把握状況を報告

第5回 役員会（5月20日）

- 看護職員採用試験（来春卒業見込者）の実施を決定
- 裁判員制度の実施に伴う職員の勤務時間、休日、休暇等に関する規程を改正、5月21日付けで施行
- 教育研究振興基金の適用対象事業としてAEDトレーニングユニットの購入を承認
- 看護師3名の採用を決定

第6回 役員会（5月27日）

- 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 講座研究費・教員研究費の見直しについて
 - (2) 大規模コホート研究のための検討委員会の設置について
 - (3) 平成20年度業務実績報告書(案)について
- 職員給与規程を改正し、6月1日付けで施行（平成21年6月期末・勤勉手当支給率の改正）
- 大学構内環境美化活動の実施を報告

第7回 役員会（6月2日）

- 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 教員の海外留学（期間変更）について
 - (2) 教員人事について
 - (3) 任期制教員の再任審査について

第4回 教育研究審議会（6月2日）

- 大規模コホート研究のための検討委員会の設置について、教育研究審議会として承認、次回全体教授会で意見聴取
- 講座研究費・教員研究費の見直しを決定
- 平成20年度業務実績報告書(案)を審議
- 7月1日付け教員人事を承認
- 任期制教員の再任を承認
- 第一内科学助教竹田征治氏の海外留学期間の延長を承認

第5回 教育研究審議会（6月9日）

- 第一解剖学教授候補者として西真弓氏を承認、役員会に答申

第8回 役員会（6月10日）

- 第一解剖学教授として西真弓氏を決定
- 系統解剖実習室におけるホルムアルデヒド対策を報告

第9回 役員会（6月17日）

- 平成21年度職員採用計画を承認
- 文部科学省・産業経済省の産学官連携拠点として採択されなかったことを報告
- 新型インフルエンザへの対応の見直しを報告
- インドネシア人看護師等受け入れ事業のマッチング結果（2名）を報告

第10回 役員会（6月24日）

- 平成20年度決算を承認
- 平成20年度計画の評価を承認
- 平成21年度職員採用試験の実施を承認
- 看護師1名の採用を決定

第11回 役員会（7月1日）

- 研究生及び専修生に関する申し合わせを改正
- 文部科学省科学研究費補助金の採択概要を報告
- 看護職員採用試験（来春卒業見込者）の合格者78名を決定

第12回 役員会（7月8日）

- 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 教員人事について
 - (2) 平成22年度医学科入学試験について
 - (3) 文部科学省補助金〔病院関係〕の採択状況を報告
- 大学関連業務改善推進事業
- 周産期医療環境整備事業（院内助産所等整備）

第6回 教育研究審議会（7月9日）

- 第三内科学教室より推薦のあった臨床教授の選考を承認
- 教員人事を承認
- 平成22年度医学科入学試験の方針を承認
- 平成20年度決算を報告
- 平成20年度計画の評価を報告
- 研究生及び専修生に関する申し合わせの改正を報告

どんな相談にも乗ります！～「学生カウンセリングコーナー」を開設～

学生諸君が、心身、学業などの日常生活における悩みや不安、将来のことなどを相談してもらえるように「学生カウンセリングコーナー」を5月29日から開設しました。

毎週金曜日の午後4時30分から午後6時30分まで厳櫃会館1Fで、臨床心理士の近池操先生と本学教員が隔週交代で相談を受け付けています。お問い合わせは、学務課厚生・入試係（内線2214）まで。どんなことでも気軽に相談してください。

また、学生相談HP (<http://top.naramed-u.ac.jp/zaigaku/gakuseisoudan.htm>) も開設し、メールでの相談も受け付けています。メールアドレス (soudan@naramed-u.ac.jp) ※相談の秘密は厳守します。

ストップザ大麻！薬物！～乱用の危険性と弊害についての講演会～

学生生活における様々な相談を受けたり、サポートを行うため、医学科、看護学科でそれぞれ学務委員会の中に**学生生活部会**を設けています。同部会では、最近、社会問題となっている違法薬物について学生の皆さんにあらためて考えてもらうことを目的として、4月21日(火)の夕方、「大麻等薬物乱用の危険性と弊害」に関する講演会を開催しました。

開催挨拶として、吉岡学長から大麻等を使用した場合の社会における厳しさについてのお話があった後、薬理学の吉柄教授から「薬物取締法と麻薬の薬理作用」について、精神医学の岸本教授から「薬物乱用による精神症状と弊害」について、それぞれ講演をしていただき、最後に、医学科学生生活部会長の小西教授から講演のまとめと「学生カウンセリング事業」の紹介が行われました。

当日は、医学科、看護学科の1、2年生を中心に、約350名の学生が熱心に聴講し、違法薬物使用の危険性、弊害などについて認識を深めました。

なお、学生生活部会では、今後も飲酒、交通事故等、様々なテーマを取り上げて講演会を開催していく予定ですので、学生諸君の積極的な参加を期待します。



下ッ道

(編集後記)

今号には、附属病院の総合相談窓口や入院院・救急窓口のリニューアルについての記事がありました。夜間救急玄関ホールが明るく落ち着いた雰囲気になるよう改装が進められているようです。また、待望のコーヒーストップも近々オープン予定ということで、とても楽しみにしています。これらの環境整備は、患者さんだけでなく

教職員にも喜んでもらえるのではないのでしょうか。奈良医大も、より働きやすい環境へと変わっていくといいですね。

掲載希望の記事等については、各編集委員までお知らせください。

○今村 知明(健康政策医学)
大西 健(生物医学)
粕田 承吾(法医学)
植村 正人(内科学第三)
中島小乃美(成人看護学)
橋口 智子(看護部)
福留 隆二(研究推進課)
鷹本 純史(学務課)
西村 和也(病院管理課)
鷹野 覚(総務課)
(○印は編集委員長)

あ、笑ってる。キョーリン



広告

Kyorin

健康はキョーリンの願いです。

キョーリンが考える新しい時代の健康は、
毎日をいきいき生きるための「健康」。
さまざまな健康への不安を解消し、
より快適に日々をおくることができれば、
自然に笑顔があふれてくる。キョーリンが
めざしているのは、そんな「笑顔の健康」です。

株式会社キョーリン

[本社] 〒101-8311 東京都千代田区神田駿河台2丁目5番地 TEL:03-3293-3451

キョーリングループ：キョーリン製薬 キョーリンリメディオ
ドクタープログラム ビストナー 杏文堂

このページに広告を掲載しませんか？ くわしくはこちら → <http://www.naramed-u.ac.jp/gakuho/>